



広島県支部総会と懇親会の報告

支部長 根来 泰治 (1971年度 人文学科卒)



今年の支部総会と懇親会は、2月24日(土)午後1～4時、福山市で開催いたしました。福山駅前のホテルに付属する洒落た雰囲気のあるガーデンレストランが会場で、35名ほどのこじんまりとした会合でした。しかし、たいへんに熱気の感じられる集まりとなりました。学院を想うと、いつもこころ燃える人たちが集まっているのでしょう。卒業年度の幅も相当にあって、かなり先輩の顔もありました。

今回、案内をいたしまして、その「返信ハガキ」をたくさん受け取りました。事務局の者たちと読ませてもらって、出欠の返事に添えての近況報告がとても楽しい内容で、思わず吹き出し笑ってしまうのやら頑張ってるねとエールを送りたくなるのやら、そして何よりもそこに込められている、多くの場合「なつかしさ」の表明となつての学院に対する深い愛なのです。こういうのを読ませていただくのは役得でもあって、こころ励まされることです。同窓会の集まりはどうしても持続させねばと思わされます。

当日の会場からも学院への熱い思いが注がれていました。県内のある施設の責任者からの声を一つだけ紹介しておきます。「昨年まで私どもの施設には、実習やボランティアで学生が派遣されてきていたのが、突然、だれも送られてこないことになった。また、そのことについての何の説明も学院からはなされない」とそのような率直な声です。どうやらわれらが愛する学院の顔が、このところ焦点を失ってぼやけてきたのでは、という感じがするのです。

今回の会場は、前回の三原市よりまだ東寄りです。広島県内に在住の同窓生諸氏は、およそ700名ですが、東西に長い広島県(因みに、新幹線の停車駅が、東から福山・尾道・三原・東広島・広島)にあつては、総会の開催場所の設定によって、出席者がかたよってしまうのではと悩みも深いのです。次回は、東広島市が広島市というように移してゆかねばならないでしょう。事務局を、聖恵授産所内(木下誠也)に移しています。

広島県支部事務局

聖恵授産所内 木下 誠也

TEL 0846-26-1002

●支部会からのお知らせ

高松支部

支部長 牧本 憲尚

第3回高松支部総会を今年10月頃開催したいと思っております。一人でも多くの方に出席していただけますようご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

香川西部支部

支部長 山本 宏

第2回香川西部支部総会を今年中に開催予定です。学院の本拠地ですので盛大にとりおこないたいと思っています。

清泉礼拝堂

卒業生受賞インタビュー



第36回香川菊池寛賞

大内由香 (1978年度 英語科卒)大川郡大川町在住

讃岐香川出身で名高く知られる作家 菊池 寛の偉大なる業績を継承するために設けられた香川菊池寛賞に、学院卒業生である大内(旧姓 田村)由香さんが、作品「鳥坂峠」において受賞されました。受賞作品は四国新聞に7回にわたり掲載されましたので、ご存知の方も多いかと思われます。幼い頃から書くことに興味を覚え、文学好きであったという大内さんに栄えある受賞の喜びを伺いました。

Q—この度は第36回香川菊池寛賞受賞おめでとうございます。作品は新聞で読ませていただきました。「鳥坂峠」と言う地名、登場人物が話す方言に、地元出身の私は親近感を持ちました。主人公リュウイチ少年の家族との繋がりと別れに、終戦との絡みも併せて悲哀を感じました。

A 大内 ありがとうございます。主人公のリュウイチは私の実父がモデルであり、登場人物もあえて実名にしました。この作品は父の記憶による家族の話が私が小説にしたものです。

Q—今回の受賞に関してご家族の反応はいかがでしたか？

A 大内 父は勿論のこと父方の親戚は大変喜んでくれています。娘もとても喜んでいますが、息子は無関心で今一つでした。主人公リュウイチと小説のラストに別れてしまったタケカズ(リュウイチの母の遺言であったリュウイチを中学に進学させる為に他所へもらわれていく)ですが、受賞を知り何十年か振りに、父に電話で連絡をくれました。離れておりますが、彼は今でも元気で暮らしています。

Q—小説を書くことに興味を覚えられ作品を書き始めたのはいつ頃でしょうか？

A 大内 中学生の頃、反省等書く班ノートに友人を登場させたストーリーを書いたのがきっかけです。5・6人のメンバーが交代に交換するので、一週間目に回ってくるのが本当なのですが、次どうなるの？と毎日ノートが来てました。それから小説を書くようになりました。書くことが自己表現としては、一番自分にあった方法だと判りました。

Q—大内さんは、お仕事、家庭をお持ちになられていますね。お忙しい日常だと思えますが、どのような時間に執筆されるのでしょうか？

A 大内 日常の仕事を終えた後、就寝時間までパソコンに向かっていますが、遅くとも夜12時頃までには切り上げるようにしています。波にのっている時は一気に書き上げますが、そうでない時もありますので、作品を書く合間に他の方のホームページを覗いたりもしています。将来は、自分のホームページで作品を公開して、全国からの反応を得ることが出来るよう夏頃までには作り上げたいと思っています。

Q—小説を書くことの魅力についてどんなことがありますか？

A 大内 自分が書いたものを読んでもらい、その人に「良かったよ」と言われた時、感動してもらえた時は本当に嬉しいです。書くことには定年がありませんし、文章教室の先生から40、50代から作品に一番いい味が出てくるので頑張りなさいといわれます。勿論、若い人には若い人の良いところも沢山ありますよ。

Q—四国学院在学中の学院の印象や思い出についてお聞かせください。

A 大内 大学の図書館ですが、薄暗い雰囲気が漂っていましたね。(笑)授業をさぼって図書館の個室で小説を書いていたことが懐かしいです。同じ文学好きの友人達と、大変な作業なのですが、書いた作品をガリ版刷りにして先生に見てもらったこともありましたが、先生方の反応はあまりよくなかったです。英語科でしたが、英語より文学のほうが興味があって森田先生の日本文学は必ず出席していました。最近の四国学院と言えば硬式野球が熱戦ですね。息子も他学で野球をしていますし、息子の友人が四国学院の硬式野球部にいるので新聞を読んで目が止まりました。応援しています。学院も近代化して新しい建物が多いですね。香川東部に住んでいますので善通寺に行く機会はあまりないのですが懐かしい思い出は持っています。

—今日はどうもありがとうございました。これからも益々のご活躍をお祈りしています。

インタビュー

会報委員 飛田由香

(1983年度 英語科卒)

「鳥坂峠」舞台は昭和20年。主人公リュウイチ少年の生家に、後妻にきた祖母とその連れ子タケカズ。両親を早くに亡くした少年にとって心のよりどころである居候している使用人良蔵。複雑な家族構成の中、家族の繋がりを求め孤独で薄幸な日々を送った少年期の物語。



正門(1999年9月完成)

第2回 ロゴス館 宿泊者 突撃インタビュー



今回は、ゴールデンウィークの5月3日に行われた卓球部OB会の方々からロゴス館に宿泊されました。心地よい5月の風が吹く朝、インタビューにさわやかに応えていただきました。

卓球部OB会代表 **中川 良和** (1972年度 人文学科卒)(高松市在住)
水口 英治 (1980年度 英文学科卒)(愛媛県在住)
坂本 幸繁 (1987年度 人文学科卒)(高知県在住)
仁方越 郁夫 (1979年度 人文学科卒)(広島県在住)
細川 貴司 (1972年度 人文学科卒)(高松市在住)

Q お早うございます。ロゴス館の宿泊はいかがでしたか？

A OB 建物が大学構内にあるので環境が静かでした。

Q 卓球部OB会はよく開かれているのですか？

A OB OB会は、年2回5月のGWと11月の休日の開催を目標にして50回を数えます。以前は、市営体育館等を借りてOB戦をしていましたが、学院の体育館が借りられることを知ってからは、こちらでしています。親睦会と宿泊は、ロゴス館を利用して、家族連れも多いです。

Q OB会全体の人数は何人くらいいらっしゃるのですか？

A OB 150~200人だと思います。横のつながりもとれていて今回は在生を含め30人が参加しました。今回参加出来なかった方、次回11月を楽しみにしてください。

Q 在学時と比べて学院の様子も変わったと思いますが、何か気づかれたところはありますか？

A OB 建物が近代的で新しく変わっていますね。在学時はキャンパスの緑が多く運動場の周りをよく走ったりしました。素朴な感じが良かったです。

Q 在生へ何か思われることはありますか？

A OB 今の環境に順応している現学生に卒業した私達から特に言うことはありませんが、OB会にも参加して頂き、我々と交流を持ちながら、今後のことの支援をしていきたいと私達は思っています。それと、会報を通じてPRできるなら、「卓球」の魅力を知って欲しい。そして卓球部に入部して欲しい。

Q 一同窓会では2年前に四国学院同窓会総会を開きました。また学院では、卒業生、一般の方も受講できる大学開放講座もありますが、参加されたことはありますか？

A OB 県外在住者には、家族や宿泊、旅費の問題があるし、近県でも時間的に残念ながら参加出来ない方が多くいると思います。けれど、案内が来たら参加したいと思う人もいるでしょう。

最後にロゴス館前で記念写真を撮りました。朝食は手作りで用意され、館内はいい匂いがたちこめていました。皆さんのアットホームな様子が伝わってきました。お忙しい中、インタビューを受けていただいた事に紙面を借ってお礼申し上げます。



インタビュー
 会報委員 **飛田 由香** (1983年度 英語科卒)

ロゴス館利用案内

旅行の宿、同窓会場としてお気軽にご利用ください。1階ホールのみのご使用も可能です。週末は大変混み合いますのでお早目にご予約を。
 休館日/お盆・年末年始

部 屋	定 員	室 数	使 用 料
2 階 和 室	10 人	2	一人 1,200円
2階洋室(ベッド)	8 人	2	一人 1,200円
3 階 和 室	4 人	2	一部屋 7,500円
3 階 個 室	1 人	4	一部屋 3,000円

お問合せ・お申込は **四国学院同窓会事務局** 平日 9:30~17:00
 ☎ 0120-459500 FAX 0877-63-4599

同窓生からのお便り

～キャンパスからの贈りものに感謝～



三好 一弘
 (1962年度 基督教科卒)

1963年の春、私は本学の短期大学を卒業し、4月に事務職員として働き始めました。若い人たちといつもいっしょにいたい、若い人たちの役にたきたいという思いがかなえられて、希望に燃えていました。

希望に燃えていたのは、私が若かっただけではなく、学院も若かったためかもしれません。当時、4年制大学が出来て2年目、学生数は、約370人、教職員数は60人ほどでした。新卒の男性職員としては私が最初だったせいもあって、学生たちとはすぐに友だちになりました。なかには私より年長者もいました。

新しい建物といえば1年前(1962年)にできた聖恵館だけで、他は旧軍の建物でした。何もなかったけれど、学生も教員も職員も元気でした。いま振り返るのは少し恥ずかしいのですが、学生たちと徹夜で議論し、何度も人生を語り合い、学院の将来に思いを馳せました。教会に行くこと以外に自分の時間はなかったけれど、忙しさは苦に

なりませんでした。学生といつもいっしょにいることが楽しかったからです。むつかしいことはわかりませんが、学ぶとは、ともに希望を語るということという教育の原点のようなものを感じていたのかもしれない。

当時の学生たちの何人かとは、いまでも付き合いがあって、ときには学院を訪ねて来てくれます。必ずしも志どおりになった人ばかりではありませんが、みんなそれぞれの持ち場で頑張っています。彼らや彼女たちの誠実な生き方が、私にとっても、四国学院にとっても何よりの財産だと思います。

学生時代を含めて40年以上の思い出を書き出したらきりがありませんし、自慢できることもあまりありません。いうところの大過はそんなになく、小過はいっぱいあります。未熟や至らなかつたばかりに、学生や同僚のみなさんに誤解が生じたり、ご迷惑をかけたこともあったと思います。もっと大局的見地に立ってはっきりと意見をいえばよかった。おかしいと思ったことには、もう少し毅然と

同窓生からのお便り
キャンパスからの贈りものに感謝

した態度を賞げばよかった。その意味では、若い同僚、とくに職員のみなさんは歯痒い思いをされたかもしれません。

でも、私は、学生が好きでした。四国学院が好きでした。四国学院で働いていることに誇りを持っていました。学生が四国学院で学び、成長し、その後の長い人生で、この学園で過ごしたことがほんとうによかったと思えるようになって欲しい、と願っていました。もちろん、今もそうです。

何かの本で読んだのですが、ファシズムを徹底して批判したアメリカの神学者ラインホルド・ニーバーは次のようにいったそうです。

「神よ、願わくは、変えることのできるものについては、それを変えただけの勇気が与えられんことを。変えることのできないものについては、それを

受け入れるだけの冷静が与えられんことを。そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを識別する知恵が与えられんことを。」

数多くの決断と予想外の事態への対処の連続、そんな日々を支えてくれるものとして紹介いたします。

私は、「キリスト教信仰による人格の尊厳と自由を基盤として、学術の研究と教育を行う」という建学憲章をしっかりと心に刻んで、みなさんがそれぞれの持ち場で活躍されんことを心より願っています。

四国学院で学び、かつ働かせていただいたことに誇りと感謝を持って。

緑芝「四国学院新聞」第102号より転載、
タイトルは変更させていただきました。

学院からのご案内

四国学院年間スケジュール(2001年度)

4月 April	8月 August	12月 December
4月4日 入学式 4月17日～19日 春季キリスト教強調週間 4月24日 全学遠足	9月 September 9月22日 オープンキャンパス 9月26日 大学院(第1次)社会人入学試験 9月28日 9月卒業式	12月5日 学生大会 12月8日 駅伝大会 第25回メサイア演奏会 12月15日 善通寺市民クリスマス 12月21日 学院クリスマス
5月 May	10月 October	1月 January
5月12日 プレーデー 5月16日 学生大会 5月26日 オープンキャンパス	10月16日～18日 秋季キリスト教強調週間 10月19日 学院創立記念日・記念礼拝 10月23日 パイオルガン演奏会	1月30日～31日 一般入学試験(A)
6月 June	11月 November	2月 February
6月18日～22日 第7回マイノリティーウィーク	11月2日～4日 大学祭 11月7日 推薦入学選考	2月19日 大学院・編入(第2次)入学試験
7月 July		3月 March
7月11日 ハンドベルコンサート 7月25日 編入(第1次)入学試験 7月28日 オープンキャンパス		3月7日 一般入学試験(B) 3月12日 卒業式

<p>秋季キリスト教強調週間</p> <p>特別チャペル、講演会などを通して、講師のメッセージで心を耕します。</p>	<p>普通寺市民クリスマス 清泉礼拝堂にて 無料</p> <p>普通寺市内教会と宗教センターの協力による音楽一杯のクリスマス集会です。</p>
<p>パイオルガン演奏会 清泉礼拝堂にて 有料</p> <p>毎年好評の演奏会。今年は米国より国際的に活躍中のオルガニストを迎えます。</p>	<p>学院クリスマス</p> <p>朝夕2回の特別チャペル。特に夕方のキャンドルサービスは心温まるクリスマス礼拝です。</p>
<p>第25回メサイア演奏会 清泉礼拝堂にて 有料</p> <p>今年は本学出身の声楽家、韓国人声楽家などを迎え、25周年記念公演とします。</p>	<p>お問合せ 四国学院 宗教センター 0877-62-2111(内線250)</p>

“祖谷山ロッジ”のご紹介

学院は自然が美しい徳島県三好郡東祖谷山村に素敵なロッジを所有しています。卒業生も利用できるそうですので、お気軽にお問合せください。

宿泊料 1,000円

お問合せ **四国学院 学生課**
0877-62-3966(内線250)

事務局からのお知らせ

★生まれたばかりの「ロコスだより」は、あなたが発信者。こんな投稿お待ちしております。

教育学科卒業生の皆様へ ～教員着任のお知らせ～

1981年に入学しました深井克彦です。この度2001年4月1日より文学部教育学科の教員として着任しました。学生、助手、非常勤、そして今回は専任教員としてまた四国学院大学で働くことを光栄に思っております。さて、教育学科も来年で30周年を迎えようとしています。できれば教育学科卒業生が一同に集まれる機会があればと思っております。皆様のご意見をお聞かせ願えたら幸いです。ご意見は下記E-mailかFAXにてお願い致します。沢山の御意見をお待ちしています。

E-mail: ped@sg-u.ac.jp Fax: 0877-62-3932

広告募集

同窓生の申込に限りです。広告デザインは各自ご用意ください。広告サイズ タテ3×5cm 広告料 5,000円

お便り募集

サークル・ゼミ・学科の懐かしいあの人へ、近況報告をしてはいかがですか? 同窓会、学院へのご意見ご希望等何でもかまいません。字数は50字～200字まで。

サークル・ゼミ・他諸団体のOB会案内・報告

卒業後の交流、頑張っている様子をお知らせください。

サークル・ゼミのOB会登録

当会では、卒業後の各団体での盛んな活動を支援しご協力をいたします。団体登録をしていただきますと必要時、会員の最新の住所で名簿や宛名ラベルを作成いたします。尚、作成にあたりましては、個人の申出がございましたらデータの提供は行わないよう注意も払っておりますのでご連絡ください。

会員名簿の販売

1999年度版 定価4000円(送料込み)販売は、会員のみに限定しています。

住所変更届のお願い

名簿で住所不明や各会合のご案内をお届けできない悲しいことにならないよう、ご結婚や転職等で住所変更がございましたら必ずご一報ください。

ご注意ください

当会とは一切関係のない団体から、電話やハガキで住所調査や寄附の勧誘等があったと連絡を頂いております。当会による活動につきましては、会報やホームページで前もってお知らせいたしますので、充分ご注意ください。

編集後記

会報発行も今年で3回目を迎えました。今回は各界で活躍される先輩方を取材する機会に恵まれ充実した時間を過ごしました。特に香川菊池寛賞を受賞された大内さんにお会い出来たことは読書好きの私にとって益々、本を読む幸せを与えていただき感謝しております。卒業生として応援していますので頑張ってください。